

泉佐野市

小中学体育館にLPガス

全18校 GHPと発電機導入

泉佐野市（千代松大耕市長）はこのほど、市内全18校の小中学校体育館にLPガス仕様GHPと非常用発電機の導入を決めた。市のほば全域が都市ガス供給区域内だが、LPガスの特性や災害対応力、供給体制、コスト面を高く評価し採用に至った。導入に際して経済産業省の災害バルク補助金を活用。3カ年計画で整備し今年度は6校で着工。来年1月の竣工を目指す。

千代松市長は小学校へて小中学校の体育館へののプール整備事業を始め、泉佐野地域ポイント「さのぼ」、無料コミュニティバス導入など、財政健全化団体からの脱却後、市民サービス拡充を図っている。自然災害や熱中症対策として基本的な仕様は同様の

設備を有する箕面市を参考にしているが、各校の室内機とサーキュレーターは体育館の規模に応じて増設する。中学校は体育館に加えて、武道場にも空調を整備する。発電機は非常用のみの使用で各校に9・9キロボルトタイ

プを導入する。発電容量は停電時、GHPとサーキュレーターの稼働を想定して決定した。各校の防災備蓄倉庫にはガスコンロが備えられており、災害時には炊き出しなどで利用する。また、各校にはGHPと発電機と併

せてバルーン投光器を整備する。LPガス供給設備は市が所有する。LPガス容器設置先は、設置分と片側交換分を市が所有。例えば50キログラムLPガス容器18本を設置先では、片側交換分9本の計27本が市の容器となり、交換分はLPガス供給事業者側で保管する。契約については、災害時支援協定を締結している大阪府LPガス協会泉佐野支部（西村

孝文支部長）を窓口に行う方針。今年度は3カ年計画の初年度。洪水被害のリスクが高い地域の日新、北中、大木、上之郷の4小学校、第三と長南の2中学校の体育館と武道場を整備する。

福島敏・泉佐野市都市整備部技監兼教育部施設担当理事は「小中学校の普通教室は都市ガスと電気の空調で、給食センターは都市ガスの中圧導管供給であるが、災害時にライフラインが寸断した際にLPガスが最も有効であると判断した。工事費用やランニングコストでもLPガスに優位性があり、地域のLPガス販売事業者との災害時支援協定も発災時のリスク管理上で判断材料となった」と述べた。

各校の馬力数と供給設備は次の通り。

- 【小学校】日新90馬力（25馬力、20馬力各2台）50キログラム容器18本、北中72馬力（16馬力、20馬力各2台）980キロボルト貯槽、大木40馬力（20馬力2台）50キロボルト貯槽、上之郷60馬力（30馬力2台）同16本の計226馬力
- 【中学校】第三体育館72馬力（16馬力、20馬力各2台）同16本・武道場32馬力（16馬力2台）同10本、長南体育館90馬力（20馬力、25馬力各2台）同18本・武道場32馬力（16馬力2台）同10本の計226馬力。